15

高木兼寛の健康教育観に関する研究（第一報）

――臨時教育会議での小学校教育改善に関する発言内容から――

蝦名總子[1]・平尾真智子[2]・芳賀佐和子[2]

[1]慈恵看護専門学校
[2]東京慈恵会医科大学医学部看護学科

高木兼寛（一八四九～一九二〇）の児童に対する健康教育観を臨時教育会議での発言内容から明らかにすることを目的に研究を行った。

研究資料として、大正六年に内閣の諮問機関として設置された臨時教育会議における出席者の発言の速記録を用い、高木兼寛の児童に対する健康教育観の表現されている第二～四回総会での発言に注目し、その内容を分析した。速記録は文部省編『資料臨時教育会議』第一巻（全五冊）、文部省、一九七九を用いた。

臨時教育会議は大正六（一九一七）年十月一日から大正八（一九一九）年三月二八日までの一年半の間に総会三〇回を開催した。総裁・副総裁は大臣経験者が就任し、委員は枢密顧問官、貴族院・衆議院の議員、内閣書記官以下法制局・内務省など政府諸機関の代表者、官立・私立の高等教育機関関係者など三〇数名であった。諮問は小学校教育、高等普通教育、大学教育・専門教育、師範教育、女子教育、実業教育、などほぼ全領域に及んだ。高木兼寛は当時七〇歳で、東京慈恵会医院医学専門学校長であった。彼は明治八年英国に留学しセント・トマス病院医学校を卒業、一四年に成医会講習所（後の慈恵医大）、一五年に有志共立東京病院（後の慈恵医大病院）、一八年に看護婦教育所（後の慈恵看護専門学校）を創設した。東京海軍病院長、海軍軍医総監などを歴任、海軍兵食改善で脚気予防に成功した経歴をもち、貴族院議員も務めている。

高木は全三〇回のうち二六回の会議に出席、ほぼ毎回発言をしている。そのうち彼の児童に対する健康教育観の表現されている発言の多い第二～四回の小学校教育改善を主題とした会議における発言内容を整理し分析を行なったところ、高木の発言内容はつぎのよう

なものであった。

①児童の体格向上の必要性に関して。国民の体格・肉体的欠陥を軍隊、学生、幼稚園、女性、子供、教員の例をあげて指摘し体位向上の必要性を述べている。②小学校の行事・研究に関して。運動会、学芸会、賞罰、研究のあり方を述べている。③生徒・教員の服装に関して。靴、日光浴・空気浴、帽子、運動服、袴、足袋、猿股・股引について健康上の観点から利害を説いている④学用品・学校設備に関して。教科書、筆、紙、石盤、鉛筆、色鉛筆、机の高さ・腰掛けの高さ、近眼、などに関して健康の視点から自分の考えを述べている。⑤学校建築に関して。全国画一的で衛生に配慮がないことを指摘している。⑥体育教育に関して。体育を重んじる気風がない、小学校教育における健康への配慮は体育があってこそ教育の効果をあげることができる、小学校の体育に兵式体操を用いた方がよい、と体育教育を強調している。

このように具体的な対策を提言できるのは大正元年頃から続けられている全国の学校での衛生講演などにより、児童・教員の体格、学校設備などを実際に観察しているからであろう。またこのような高木の発言内容には学理よりも実証・実践を主眼とする公衆衛生的視点を持った英国医学を学んだ医師としての特質が現れていると考えられる。

これらの発言内容から、高木兼寛の児童に対する健康教育観の特徴として、将来の国民体位の基盤となる児童の体位向上、健康保持の対策を小学校の行事、生徒の服装、学用品・学校設備、学校建築、体育教育の観点から具体的に講じていることが明らかとなった。